

日本とシンガポールの学生が、一緒に未来の建物を考えたらこうなった！～ショップハウスと町家の歴史をひも解いて見えた未来～

2014.10.29

👍 4 ツイート 0
 いいね！ G+

2020年に開催が決定した東京オリンピックに向け、世界への文化発信を加速する日本。シンガポールでは以前より、在シンガポール日本国大使館管轄のジャパン・クリエイティブ・センター(JCC)がその役割を担い、活動も今年で5年目に。このJCCにて今回、展示会“Learning from past wisdom to design a better future”が開催されていたのでお邪魔してきました。

シンガポールを象徴する建物「ショップハウス」と、京都の「町家」

続々と誕生する新たな観光スポットで、旅行者の注目を集め続けるシンガポール。その傍ら、イギリス統治時代の影響が色濃く残る古い街並みも、この国の魅力の一つ。路地を歩けば、歴史的なものから、カラフルで個性的なものまで、様々な表情を見せてくれる「ショップハウス」に出会えます。



写真提供：日本アセアンセンター

ショップハウスとは、一階部分が店舗、二階以上が住宅になっている建物のこと。昔は間口の広さで税金が決められていたため、入り口が狭く、奥に長い造りになっているとか。そのため、通りに沿ってショップハウスが軒を列ねてコミュニティを作り出しました。この建物の形態、日本で言う京都の「町家」ととても似ているそうです。

シンガポールと日本の学生たちがタッグを組んだ展示会

そんなショップハウスと京町家に注目し研究発表されているのが、今回の展示会。シンガポールと日本の学生達がペアになり、ショップハウスと京町家の将来の在り方、未来の街づくりについて考察し、パネルによる説明と模型で表現されています。

「特に近年、シンガポールのデザイン性の高い建築物は世界中から注目が集まっていますが、シンガポールでも日本の建築に対する関心は非常に高い中、近い将来、日本とシンガポールの若手建築家同士の交流へ発展すれば。」と話すのは、JCCの堀川さん。

(以下、堀川さん)

そんな目的をふまえ、取り組みの第一弾として両国の学生交流プロジェクトが企画されたわけです。

この活動では、1ヶ月間、建築学を専攻する両国6名ずつの学生たちが互いの国を訪問。初めの2週間は現地の建築関連の会社にてインターン、残りの2週間でショップハウス/京町家をそれぞれ見学。



活動を通して生み出された、学生達による未来型ショップハウスと京町家のイメージの発表はとてもユニーク。



こちらは、店舗部分と居住部分を可動式の部屋によって入れ替えられるショップハウス。時間帯によって活用部分が異なるショップハウスの性格に目をつけ、無駄を無くした構造になっているそうです。



「プロの建築家の方々から見たら、実現化の難しい作品もありますが、若い感性をあえてそのまま伝えることで、専門家の方々の刺激になれば。」(堀川さん)

ちなみに、ショップハウスというと、シンガポール在住の私もよく見かける建物なのですが、知らないことも多く、初めて知る内容も。例えば、「5 foot way」というショップハウスの軒先にある歩行者専用の通りの存在。日よけ、雨よけに普段何気なく利用させてもらっていたのですが、イギリス統治時代に必ず設置するよう義務付けられていたものであるということ。そして、長く連なるショップハウスは、隣家と必ず壁で仕切られているということ。これは、火災防止対策のためでもあるそうです。展示を通して、知識が広がります。

交流を通して見えてくる未来

日本人とシンガポール人それぞれの感性が一つになり、生み出された新感覚の作品はどれも印象的でした。住環境を軸に互いの文化を肌で感じたからこそ生まれた発想に、素人の私でも、見ているだけでワクワクしてしまいました。そして、それぞれの文化をパネル展示で発表しているエリアでは、お互いの文化を体験している学生たちの楽しそうな写真が並び、思わず時間を忘れて見入ってしまいました。



全体を通して、若い世代が交流することで、先入観なく互いの良いところを吸収でき、刺激し合っているという印象を受けました。また、シンガポールの若者の間では、「日本と言えばオタク文化」というイメージが先行しがちなため、かねてからもっと日本の歴史や洗練された部分を、国として上手く伝えて行って欲しいと感じていましたが、このような交流は、日本の文化を肌で感じてもらえるいいきっかけになっていくと思います。

今回の展示は残念ながら既に終了していますが、バックヤードではファッションをテーマにした次回の展示会の準備が始まっていました。

オーチャードからも徒歩圏内、便利な場所にあるJCC。シンガポール人への日本の文化発信を目的としているようですが、もちろん日本人の私たちの見学も歓迎とのこと。

この施設自体も、重厚で清楚な「バンガロー形式」と言う伝統的な建築物になっており、そこも見所の一つです。



「日本人の繊細さ、細やかさの光る職人魂を、シンガポール、そしてアジア、世界に発信していきたい」と語る堀川さん。

ここでの活動を通じて、今後とも、シンガポール人にとって日本がもっともっと身近な存在になっていくことを願っています。

TRIPPING!シンガポールレポーター

Amy

企画名称	Learning from past wisdom to design a better future
日程	2014年10月1日(水)～9日(木)
会場	ジャパン・クリエイティブ・センター (JCC)
主催	ジャパン・クリエイティブ・センター (JCC)、国際交流基金アジアセンター
サイト	http://www.sg.emb-japan.go.jp/JCC/invite_architecture_2014.html

この記事は、TRIPPING!と国際交流基金アジアセンターの協力により、作成されています。



「TRIPPING! (トリッピング)」とは……海外旅行を楽しみたい人に向けて、海外に暮らす日本人レポーターがローカル情報をリアルタイムに発信する、「生活しているからこそわかる旬な情報」を集約した旅の情報サイトです。

まるで現地に住んでいる友人におすすめスポットを尋ねるような感覚で、現地の「いま」を知ることでできる旅サイト「TRIPPING!」は、出発前に情報収集の時間が十分に取れない旅行者や、ユニークに海外旅行を楽しみたいと願う旅行者の皆さまにとって、渡航先での楽しみがさらに広がることを目指しています。

URL :<http://tripping.jp/>

👍 4 ツイート 0
 いいね！ G+